

TEACCH 5 デイ実技トレーニング派遣

社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団
〒030-0822 青森県青森市中央三丁目20-30

助成事業の概要

1 派遣研修名

TEACCH 5 デイ実技トレーニング

2 日時 平成26年8月17日～21日

3 場所 佐賀市民体育館

4 講師

ジョイス・ラム博士（TEACCHシャーロット
ディレクター）

ルース・フラー氏（TEACCHシャーロット ク
リニカルスーパーバイザー）

服巻智子氏（TEACCHインディペンデントト
レーナー）

諏訪利明氏（川崎医療大学）

5 研修内容

TEACCH 5 デイ実技トレーニングは、自閉症スペクトラムを持つ個人の協力のもと、両親や専門家のためのトレーニングプログラムであり、アメリカのノースカロライナ州で行っている自閉症スペクトラムを持つ個人のための質の高いサービスの需要に応じた総合的なプロ認定のプログラムである。

実際に自閉症を持つ4人の子供たち・青年たちに実技・実習に協力していただき、受講生は、全25名の自閉症スペクトラムの支援の専門家であり、5人で1チームとなりTEACCHのエビデンスに基づく実践を学んだ。研修は包括的プログラムと個々の方略が根拠に基づいているかの二つの視点で進められ、ストラクチャードティーチングを使用した実践を行った。

事業の成果

TEACCHは地域ベースのサービスであり、教室だけではなく、地域や家庭で応用できる。どんな視覚支援が重要なのか考えながら進め、一人ひとりの自閉症児者に合わせた個別のTEACCHカリキュラムと基盤となるアカデミックカリキュラムが必要となる。その人の自閉症が、その人にどのような影響を与えているかを考えスキルを教え、柔軟な思考（変更）を教える。そのために個々の視覚支援を展開していくものである。

どんなスキルを教える場合でも、すべてはまずアセスメントから始め、能力・理解がどの程度かを確認する。そして、本人にとって必要な最小限の介入と本人のニーズに合わせた最大限の支援を行う。支援は発達面から考えたアプローチを行うため、発達年齢も考慮し、成人期への移行も視野に入れ、本人の自立・セルフアドボカシー・一般化を意識してどのような方略を使うかを考える。そのため、TEACCHの構造化を最大限に有効化するためには、幼少期の早い段階から取り入れること、一貫性を持つこと、いろいろな職種の中で協働すること、そしてアセスメントを継続していくことが重要である。

今回のトレーニングでは、自閉症スペクトラムの特性・構造化を学び、アセスメントをもとに自立を視野に入れた実践を行った。自立課題・コミュニティ・コミュニケーション・社会性・余暇の領域において具体的に支援を進めていった。すべてはアセスメントから始め、アセスメントは常に継続的であり、それぞれの領域ごとに強いめば

えのスキルを指導していく。機能的で意味のあることを教え、自立し一般化できるように個別化・視覚化して教える。そしてフィードバックし、必要に応じて再構造化をした。受講生が行った支援は毎回グループ討議でフィードバックをする方法であった。

さらに、ストラクチャーティーチングでの実践のほか、保護者パネルやゲストスピーカーがあり、保護者さんの想いや当事者さんの話を聞くことができた。

この研修内容をスタッフ全員が共有することで、事業所全体のスキルアップにもなり、更に質の高いサービスに繋がって行くことが期待できる。

成果の広報・公表

事業所内での研修報告を実施した。研修内容の説明及びストラクチャーティーチングについての説明を行いTEACCHに学ぶ視覚支援のあり方・進め方の方略を伝えた。また、構造化の有効性と受講生としての学びをこれからどのように活かしていくのか報告をした。研修報告は事業所の広報誌及びホームページにも掲載予定である。

実際の支援現場ではTEACCHに学ぶ視覚支援を実践し、支援者へのOJTを行っている。アセスメントの必要性を伝え、アセスメントをもとに様々な方略を使った実践や個別化された支援を実践している。また、保護者さんへの研修報告、それぞれのお子さんに合わせた視覚支援の必要性を説明し、今まで以上の家庭との協働を進めている。

法人内では所属長への報告のほか、復命書を通して職員への報告を行っている。

今後の展開

事業所内でTEACCHに学ぶ視覚支援のあり方の共通理解を持ち、ストラクチャーティーチングを取り入れた個別化された支援の実践を継続していく。各ステージでの移行期では、個々の特性に合わせたストラクチャーティーチングの引き継ぎを丁寧に行い、一般化を意識した移行支援を行っていく。そして、チームとしての支援の向上を図り、チームスタッフのスキル向上・人材育成に繋げていく。

また、法人内外への普及活動を始め、発達障害者支援センターや各事業をとの連携を密にし、自閉症スペクトラムの方々がお越しやすく生活しやすい地域づくりに貢献していく。

この研修の成果はとても大きなものであり、なによりもノースカロライナからの講師陣から直接指導を受けることができる5デイ実技トレーニングを経験すること自体に大きな意味がある。TEACCHに学ぶ視覚支援を実践している支援者にとっては5デイを受けることの重要性は大きく、受講後の意識の向上・スキルアップ・地域への貢献が成果としてあるため、今後も多くの支援者がTEACCH5デイ実技トレーニングセミナーを受講できることを望む。